



MBT NEWS LETTER

第330号
'25/03/07

2/8、スマホナースコール生体波形チェックシステム活用で 患者安全を考える「第2回モバイルモニタリング研究会」を開催 外部企業や病院施設関係者の参加も増え議論が白熱

- モバイル関連機器、モニター、ネットワーク、データベースなどを用いた患者の医療安全に関するテーマを考える「モバイルモニタリング研究会」（代表世話人：辰巳満俊 奈良医大 医療の質・安全管理センター長）が、2月8日（土）に奈良医大でハイブリッド形式で開催されました。
- 第2回目となる今回の研究会は「教育と安全管理」をテーマに、①特別講演・教育講演、②一般演題、③企業合同シンポジウム、の3部構成で行われました。（下表参照）
- 今回は、モバイルモニタリングに関する関心の高まりを受けて、奈良医大附属病院での会場参加者：22名、WEB参加者：19名の計41名が参加、参加組織別では企業：8社、地域病院施設：7施設と第1回目に比して大幅な増加となりました。
- そのような状況において、地域病院施設から事前に質問が寄せられました。また、企業合同シンポジウムでは2社から発表された内容について会場およびWEBの参加者から活発な質疑応答が行われるなど、モバイルモニタリングに関する課題と解決策について専門的な深い議論にも展開し、活況を呈する研究会となりました（写真①②）。



		タイトル	演者
第1部	特別講演	「蘇生教育」	下川 充 氏（市立奈良病院 病院長）
	教育講演	「学生に医療安全を教えるということ」	辰巳満俊 氏（奈良医大附属病院 副院長）
第2部	一般演題 ①	波形連携システム-tsunagu-つなぐ～循環器病棟に導入して～	堀川勝代 氏（奈良医大附属病院）
	②	波形連携システムつなぐの活用と今後の課題についての検討	吉田真希 氏（奈良医大附属病院）
	③	医療機器における教育と安全管理	小西康司 氏（奈良医大附属病院）
	④	インシデント・アクシデント報告で影響度レベル3 b以上の麻酔関連合併症の発生頻度の調査	恵川淳二 氏（奈良医大附属病院）
第3部	企業合同 シンポジウム	企業における教育活動	
		アラーム疲労に対する生体モニターマーカーの取り組み	日本光電工業株式会社
		急変時の前兆を知る～生体情報モニターを活用したRRSについて～	フクダ電子株式会社

発行

（一般社団法人）MBTコンソーシアム、（公立大学法人）奈良県立医科大学

奈良県橿原市四条町840番地研究推進課内

担当 塩山

T E L : 0744-29-8853 (直通) 、F A X : 050-3164-5598、 Email: mbt@mbt.or.jp